「地域に根ざした開かれた学校づくりの推進」に関して

令和元年度　学校評価アンケートの結果及び分析（%表示）

評価の基準　A:よく当てはまる（100～80%）　B:だいたい当てはまる（80～50%）　C:あまり当てはまらない（50～20%）　D:まったく当てはまらない（20～0%）　E:わからない

観点	番号	内容（※ ☆は運営協議委員用の質問内容. 保護者への質問は児童をお子さんへと変更している。）	教師					保護者					学校運営協議会委員					児童					総計					考察	委員評価
			A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E		
基礎・基本の確実な定着に関すること	1	基本的な学習習慣の定着と児童が主体的に学習に取り組む態度の育成を図り、単元テストにおいて全国平均を80%の児童が上回るようにする。 ☆学校参観から、児童は授業に真剣に学習に取り組んでいる。	0	83	17	0	0	46	43	11	0	0	57	29	0	0	14	48	48	4	0	0	44	48	7	0	1	児童の実態分析に努めるとともに、授業改善4＋4を意識して授業研究に取り組んできた。小規模校という特性を生かして、個に応じた指導の充実を図っている。徐々に成果がみられるようになった面もあるが、個々の児童の学習に対して個人差が見られるので、個々の課題に応じた指導法の改善や学ぶ意欲を高める手立てについて今後も研究に努めていく。 学習習慣の定着については、保護者、学校運営協議会委員の評価は高くなってきている。今後も継続的に支援を行っていきたい。 読書については、今年度は、読書量が増えている。（100冊以上の多読賞の児童が15人　2月末）家庭との連携を図った取り組みを進めていきたい。 読書量やその傾向について、「わからない。」の意見が多かったので、地域や保護者に情報を発信していく機会を設けるとともにPRしていく必要がある。	教師のきめ細やかな指導により、児童の基礎・基本の力が定着してきている。また、教師の指導により、児童の授業に取り組む姿勢が真面目である。 児童は、教師の指導のもと、集中して授業に取り組んでいる。 児童は、学習のめあてをつかみ、話合いや意見交換を通して学習の内容を深めている。 ボランティアの読み聞かせ、図書館サポーターの指導により、刺激を受け本に関心をもち親しんでいる。 授業では，子どもたちが，生き生きと先生に向き合っている様子が感じられます。ただ、複式のため、子どもたちの話合い等で調整者がいないため、本筋をそれていることもあるようにも見えた。 読書データについては、全体ではなく個人のデータがどのようなものか気になる。
	2	個に応じた指導や言語活動の充実を図るなど授業改善に努め、児童・教師相互・保護者による授業評価で肯定的な評価が80%以上になることを目指す。 ☆学校参観から、児童は、授業を通して学習内容の理解を深めている。	0	67	33	0	0	28	46	11	4	11	43	43	0	0	14	72	21	7	0	0	46	37	10	1	6		
	3	図書環境を整備し、読書活動を推進するとともに、表現活動の場の工夫や作品応募に積極的に 取り組み、自分の思いや考えを表現する力を伸ばす。（進んで読書をしている。） ☆児童は、本に慣れ親しみ、進んで本を読もうとしている。（読書量のデータの紹介）	17	66	17	0	0	11	29	25	29	7	14	43	14	0	29	52	31	7	10	0	29	33	16	16	6		
基本的な生活習慣、豊かな心の育成に関すること	4	元気なあいさつ・返事、正しい言葉遣いができ、廊下歩行等のマナーを守れるようにする。 ☆児童は、学校や自分たちの住んでいる地域で、元気なあいさつや返事、正しい言葉遣いができ、きまりを守って生活している。	0	33	67	0	0	14	54	32	0	0	57	43	0	0	0	38	41	17	0	4	27	46	26	0	1	毎年実施している中学校との連携を図った「小中連携山之口あいさつ運動」では、中学生と一緒に大きな声で元気よくあいさつする姿が見られた。児童は登校や下校の際に正門下で登校班全員そろってあいさつを行っている。元気のよいあいさつを地域や家庭にも広げていくためにも、手立ての工夫や指導の充実を図っていく必要がある。 毎週火曜日の朝に、除草や落ち葉拾いのボランティア活動に取り組んでいる。継続的に活動に参加することで、ボランティアへの意識が徐々に高まってきている。上級生が手本になり、中学年や下学年でも熱心に活動を進める児童の姿が見られた。今後は、共にふれ合いながら協力して取り組む活動へと繋げていけるように、活動の機会や内容について全職員で検討しながら進めていきたい。 あいさつが全体としてできていた。 清掃・ボランティア・人権教育の充実が図られた。反面、言葉遣い・廊下歩行など、十分でない面があるので、指導していく必要がある。	教師と児童が地域住民に溶け込み色々な体験活動（田植え・稲刈り・脱穀・もちつき・グラウンドゴルフ・料理教室・合同運動会など）を通して、人間性を高めていっているし、地域も元気をもらっている。 あいさつは、大変元気よくできている。 地域や学校でのあいさつもよく、礼儀正しくて好感がもてる。 校内でのあいさつは大変すばらしいと思います。後は、校外でのあいさつはできればまずは自分からあいさつ、その先は、自分で判断できる子どもが育って欲しいと思います。これは、家庭との連携があってこそできるのではと思う。 児童は、折に触れ、老人ホームを訪れ、ふれあい・交流して喜ばれている。また、清掃、花の世話、野菜の栽培を行っている。友だち間では、垣根いらず、思いやりのある児童に育ってきている。
	5	清掃・ボランティア、栽培活動に進んで取り組めるようにする。 ☆学校参観から、児童は、清掃・ボランティア、栽培活動に進んで取り組んでいる。	0	67	33	0	0	36	25	31	4	4	72	14	0	0	14	50	32	14	0	4	44	31	21	1	3		
	6	人権教育・道徳教育の充実を図り、自他の生命の尊重と他を思いやる心を育てるとともに、思慮深く善悪を判断して行動できるようにする。 ☆学校参観や地域での活動から、優しく人に接し、親切にするとともに、時と場を考えた行動ができている。	17	66	17	0	0	43	50	7	0	0	43	43	0	0	14	50	36	14	0	0	43	46	10	0	1		
健康・安全・体力の向上に関すること	7	安全指導の徹底を図り、命を大切にする心、態度を育成する。 ☆学校参観から、児童は自分や友達のことを大切にし、安全に気を付けて生活している。	0	83	17	0	0	46	46	8	0	0	43	43	0	0	14	89	7	0	0	4	62	33	4	0	1	アンケートの結果が示すように、安全指導の徹底・保健指導の体力向上の充実が図られた。また、健康・安全・体力についても、全体的に達成できているという評価である。 体育の時間にサーキットをはじめ、体力の向上や安全指導を続けているので、このまま続けていく必要がある。 体力向上の取組が、学校内でも地域でも具体的に見えやすい手立てとして表れていないので、次年度以降は、結果について，その成果が確認できるような手立てを検討していきたい。	上級生と下級生との仲が良く、また、児童数が少ないことが横のつながりを強めることとなり、助け合い、協力し合う心が自然に育ってきている。 休日や昼休み等、友だちと仲良くふれあい、交流し、体を動かすことが多い。 学校便りにより、児童の保健安全を守る呼び掛けや取組が地域住民に伝わっている。 子どもたちがよく運動場で元気に走り回っている姿を見て、嬉しく思う。 校外では特に自転車の安全や一時停止等の指導をよろしくお願いしたい。
	8	保健指導や食育の充実を図り、健康に生活できる力を育てる。 ☆学校参観から、児童は、健康や安全に気を付けて生活している。	17	83	0	0	0	36	57	7	0	0	57	29	0	0	14	62	28	10	0	0	48	44	7	0	1		
	9	体力向上プランに沿って、体育科学習指導や教科外における活動の充実を図り、児童一人一人の課題となっている体力の向上に努め、スポーツテストのA・B・C判定90%以上を目指す。 ☆学校参観から、児童は、進んで運動し、自分の身体をきたえている。	0	100	0	0	0	39	32	18	7	4	57	29	0	0	14	72	17	7	4	0	52	31	10	4	3		
地域に根ざした開かれた学校づくりに関すること	10	保護者や地域の方の評価や意見を受け、連携して教育活動にあたり、保護者や地域の方の期待に応える学校づくりを推進する。 ☆学校は、学校の教育活動について適切にお知らせをするとともに、地域の方々からの要望に対して適切に対応している。	0	67	33	0	0	35	26	26	13	0	88	12	0	0	0						40	30	22	8	0	学校だよりや学級通信、参観日の懇談会、学校ホームページなどを通して、教育活動の情報発信に努め、家庭や地域と連携を図りながら、教育活動を進めていくことができた。 地域の方と連携を図りながら、人形浄瑠璃やもちつき大会など、地域に開かれた学校づくりが行われた。学校と家庭と地域とのよりよい連携がとれていると思うので、高い評価を得ることができた。今後も継続していきたい。 校内の環境美化（花の栽培・グランド整備等）に関して、自治公民館長や学校支援ボランティの方と連携を図った取組と実践を今年度から行い、校内の美化に努めていくことができた。次年度以降も多くの協力を頂きながら活動の充実を図っていきたい。	子ども人形浄瑠璃のサークル活動は長年に渡り、山之口に残る伝統文化を継承するため、学校、児童、地域のチームワークで今日まで実現できている。 学校の教育活動の方針に沿って、日頃より、学校と地域の話合いが行われ、一体となった活動が進められている。 幼、小、中の連携が図られており、地域の行事や学校の行事への参加・協力が円滑に進められている。 人形浄瑠璃に1年から3年生も参加することは、大変よいことだ。 上級生、学校も一生懸命取り組んでいると思う。 郷土芸能の保存・継続に大変努力をしていただいていることに感謝している。 子どもたちにとって、一生の宝になっていくものと思う。 これからも学校と地域の連携がもっともっと強固になっていくことを望んでいます。それこそが小規模校が生き残る道の大きな要因になるのではないかと思う。
	11	文弥節人形浄瑠璃の伝承活動ならびに地域との交流や体験活動に取り組むとともに、地域の人材や施設・文化財を積極的に活用し、ふるさとを愛する心や感動する心、感謝する心を育てる。 ☆学校は、地域の伝承活動(人形浄瑠璃など)や行事に積極的に取り組んでいる。	0	100	0	0	0	61	35	4	0	0	100	0	0	0	0						59	38	3	0	0		
	12	保育所・近隣の小学校・中学校との連携と相互評価を深め、系統性・一貫性を意識した共通指導と個に応じた指導を充実させる。 ☆学校は、地域の保育所・小学校・中学校・地域との連携を深めて教育活動に取り組んでいる。	0	100	0	0	0	75	4	4	0	17	88	12	0	0	0						64	22	3	0	11		
意見等																													